令和7年産 二条大麦の栽培しおり
（品種名：はるか二条）

◎適期播種・適期防除（赤かび病防除は必須）・適期収穫に努めましょう

発行：香川県農業協同組合
監修：東讃農業改良普及センター

1.作業の要点　栽培履歴を必ず記帳し、収穫の10日前までに提出しましょう

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
排水対策（ほ場の乾田化）	耕起＼播種＼排水溝の設置（溝あけ）		麦踏み・土入れ				刈取り＼乾燥調製	
	雑草防除（播種前）＼種子消毒	雑草防除（初期）	追肥・土入れ	雑草防除（中期）	追肥・土入れ	アブラムシ防除 赤かび病		

（溝あけ）
・み（3～5㎝）排水溝を設ける。
・稲刈取後のワラを浅く鋤き込む。

（雑草）
・除草剤を散布する。
・雑草の発生が多いほ場は、

（消毒）
・種子更新を毎年行い、種子による消毒を実施する。
・伝染病対策として種子粉衣とする。（ドリル播）

（播種）
・条間17～20㎝、播種深3㎝

（除草）
・初期除草剤は、播種後から雑草が効果が高い。また、かけムラの発生前までに散布する方が効いよう、丁寧に散布する。

（排水）
・随時、補修を行う。
・連結する。成育期間中も排水溝と落水口を確実に

（麦踏み）
・節間伸長期前（二月下旬）までに土壌が乾いた状態で麦踏みを行う。

（追肥・土入れ）
・抑草効果もある。
・排水溝の補修を同時に行う。
・と効果が高い。
・追肥、追肥後に土入れを行う一月中旬～一月下旬にかけて

（雑草）
・散布する。
・除草剤は露がなくなってから

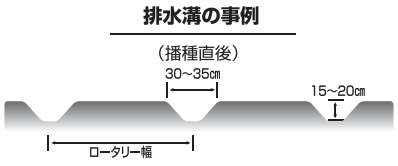
（追肥・土入れ）
・追肥後に土入れを行うと効果が高い。
・三月上旬に追肥。

（防除）
・アブラムシ類の発生初期に防除する。

（必須防除）
・その7～10日後に行う。（出穂12～14日後）と、赤かび病の防除は、約殻抽出期

（刈取り）
・の種が混ざらないようにする。ラン）を抜き取り、異種麦や草（カラスノエンドウとヤエムグ刈取り前に必ず異種麦や雑草
・収穫適期は3～4日間と短いので速やかに収穫する。
・25%以下になった頃が適期であコンバインの刈取は穀粒水分が

（乾燥）
・や品質が低下するので注意する。収穫が遅れると収穫ロスの増加
・ける。
・調製後は吸湿防止を特に心掛
・乾燥後はなるべく早く調製し、
・高温・急速乾燥は絶対にしない。



やくがら
二条大麦の葯殻抽出始め

収穫適期の穂

刈取適期目安

出穂後の目安	刈取適期の目安
47日前後	水分含量25%以下

乾燥・調製の目安

仕上り水分	ふるい目
13.0%以下	2.5㎜以上

乾燥方法（循環式乾燥機による）

生麦の水分	張込量	乾燥機型式
30%以下の場合	容量の70%	乾燥温度は機種の取扱書の指示に従う。（高温型は50℃、低温型は45℃内外を目安とする。）
30%を超える場合	容量の60%	

2.生育の目安

播種期	節間伸長開始期	出穂期	開花期	成熟期
11月25日	3月3日	3月30日	4月11日	5月16日

3.播　　種
（種子更新を徹底し、種子伝染性の病害の発生を防止しましょう）

播種適期	播種量（kg／10a）	
	ドリル播	全面全層播
11月25日～12月5日	7～8	13～15

・播種適期より早い播種は、過繁茂になりやすく、倒伏や凍霜害のおそれがある。
・播種適期より遅い播種は、収量・品質が低下するおそれがある。
・播種早限11月20日。

4.栽培のポイント
①排水対策
播種前対策：ほ場の周囲（ヨケ）と5m間隔に排水溝を設置するとともに、スタブルカルチやサブソイラー、弾丸暗きょを施工する
播種後対策：ロータリー幅ごとに深さ15～20cmの排水溝を設置し、落水口と確実に連結する
②土づくり肥料の施用で酸度矯正（適正pH6～6.5を目安とする）
③適切な肥培管理
適正な施肥量と適期の追肥
1月に葉の黄化がみられた場合に追肥（5.肥培管理参照）
④雑草の体系防除
播種前、初期、中期除草剤の体系処理による雑草防除の徹底
⑤病害虫の防除
赤かび病の適期（葯殻抽出始めとその7～10日後の2回）防除
⑥収穫の適正化
適期収穫・雑草種子（カラスノエンドウ・ヤエムグラ）の混入防止

排水対策の例

播種前の排水溝設置作業

落水口と排水溝の連結

土入れ作業

赤かび病

・開花期～乳熟期に高温多雨になると発生しやすい。
・農産物検査規格で、0.0%以上の被害粒が確認されると規格外となるため、必須で防除する必要があります。

（写真:小麦）

5.肥培管理（土壌改良資材や堆肥を施用し、土づくりに努めましょう）

①施肥基準　kg/10a

肥料名		全量	基肥	分げつ肥（1中～1下）	穂肥（3上）	成分 窒素	リン酸	カリ
いずれか	硫加燐安402	80	35	30	15	11.2	8.0	9.6
	（朝日BB488）					11.2	6.4	6.4
	（PKセーブエコ488）					11.2	6.4	6.4
土壌改良資材		60～100	60～100					

注1）ほ場の地力、麦の生育状況等により、施肥量は加減する。
注2）1月に葉の黄化がみられた場合は、分げつ肥（30kg/10a）を早急に施用する。
注3）（　）内の肥料は低PK肥料のため、5年を目途に、土壌診断を実施する。

②基肥一発施肥体系（水はけの良いほ場）　kg/10a

肥料名	全量	基肥	成分 窒素	リン酸	カリ
二条大麦専用肥料（18-8-8）	60	60	10.8	4.8	4.8
土壌改良資材	60～100	60～100			

注1）粘質土壌では使用しない。
注2）12月中旬以降の播種では使用しない。
注3）低PK肥料のため5年を目途に土壌診断を実施する。

▼土壌改良資材の一覧表　成分(%)

肥料名		ケイ酸	苦土	アルカリ分	鉄分
いずれか	粒状ユーキ鉄ケイカル	23	4	34	15
	粒状苦土石灰	0	15	53	0

注）前年にpHの低下による酸性障害がでていたほ場には、苦土石灰を100～150kg/10a程度施用する。
なお、pHを0.5上げるためには、苦土石灰約100kg/10aが必要。

6.防除管理（農薬の飛散防止に努めましょう）

①種子消毒

病害虫名	薬剤	希釈倍数等	使用時期／回数	注意事項	作業日
裸黒穂病	ベンレートT水和剤20	乾燥種子重量の0.5%	播種前／1回	種子1kgに対し5gを粉衣する。	
	ベンレートTコート				

注）薬剤はいずれかを使用する。

②病害虫防除

病害虫名	防除時期	薬剤	希釈倍数等	使用時期／回数	散布方法・注意事項等	作業日
赤かび病 ※必須防除	葯殻抽出期(出穂12～14日後)（1回目防除）	ワークアップフロアブル	2,000～3,000倍	収穫7日前まで／3回以内	10a当たり100ℓの水に(33.3～50ml)溶き噴霧機等で散布する。	
	1回目防除の7～10日後					
アブラムシ類	発生初期	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで／3回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧機等で散布する。	

①②③について記載している薬剤の使用基準は令和5年8月1日現在のものであり、今後変更になる場合があるので、使用する際は薬剤のラベルをよく読んでラベルの記載内容どおりに使用する。

③雑草防除

区分	薬剤	対象雑草名	使用時期／回数	10a当たり使用量	散布方法・注意事項等	作業日
非選択性除草剤（麦も枯れるので注意）	プリグロックスL	一年生雑草	播種前または播種後出芽前／4回以内	600～1,000㎖	10a当たり100～150ℓの水に溶き、雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。	
	バスタ液剤	一年生雑草	播種前または播種後出芽前(雑草生育期)／1回	300～500㎖	10a当たり100～150ℓの水に溶き、雑草の茎葉全体に均一にかかるよう散布する。	
	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草及び多年生イネ科雑草	耕起前または播種後出芽前(雑草生育期)／3回以内	200～500㎖	(通常散布) 10a当たり50～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 (少量散布) 10a当たり25～50ℓの水に溶き、専用ノズル等で散布する。	
初期除草	ボクサー 注1)	一年生雑草	播種後～麦2葉期まで(雑草発生前～発生始期)／2回以内	400～500㎖	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定の範囲内で多めにする。ノミノフスマには効果が劣る。	
	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期まで(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)／1回	60㎖	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。播種深度が浅い場合は薬害を生ずる場合があるので使用しない。	
	リベレーターG	一年生雑草	播種後～麦2葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)／1回	4～5kg	手まきまたは散粒機等で均一に散布する。抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定の範囲内で多めにする。	
中期除草 注2)	ハーモニーDF	一年生広葉雑草及びスズメノテッポウ	麦3葉期～節間伸長前(スズメノテッポウ5葉期まで)／1回	5～10g	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。器具を使用後、速やかに消石灰水500倍液でよく洗浄する。	
	エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	節間伸長開始期まで(一年生広葉雑草2～4葉期)(ただし、収穫45日前まで)／2回以内	50～100㎖	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。散布後、軽微な白斑・褐斑を生じることがあるがその後の生育・収量に影響はない。	
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草(イネ科を除く)	生育期但し収穫90日前まで／1回	100～200㎖	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。イネ科雑草には効果がなく、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。「はだか麦・大麦」は、使用時期が「収穫90日前まで」のため、散布時期に注意する。	
	MCPソーダ塩	一年生及び多年生広葉雑草	幼穂形成期但し、収穫45日前まで／1回	200～300g	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。分げつ抑制作用があるため、茎数が十分確保されてから散布する。暖かい日が続く時期に散布すると、除草効果が高い。	

注1）初期除草剤のボクサーを播種後出芽前に処理しようとする時、すでに雑草が発生している場合は、10a当たり100ℓの水に非選択性除草剤をあわせて溶き、噴霧機等で散布する。ただし、麦が出芽している場合は麦も枯れるので注意する。隣接ほ場の作物にかからないよう注意する。
注2）早播きのほ場や初期除草剤の散布が遅れたほ場、初期除草剤散布後に降雨があった場合など、雑草が繁茂している場合は、時機を逃さないように、天候を見ながら中期除草剤により雑草防除を行う。

●各雑草に対する中期除草剤の効果

除草剤・雑草名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	タデ
ハーモニーDF	○	△	○	△
エコパートフロアブル	○	△	—	△
バサグラン液剤	○	△	—	○
MCPソーダ塩	△	○	—	△

注）○:効く　△:多少は効く　—:登録なし

●主要畑地雑草

種名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	ノミノフスマ	スズメノカタビラ	カズノコグサ
草姿						
防除のポイント	中期除草剤による防除	収穫前に必ず抜取	初期除草剤と中期除草剤の体系防除	中期除草剤による防除	播種前と初期除草剤の体系防除	播種前と初期除草剤の体系防除

◎麦収穫後は鳥獣害対策、雑草・害虫対策、土づくり対策のため速やかに耕起しましょう！

土づくりのため、麦わらは焼かずにすき込みましょう！

排水対策を徹底し、単収向上と高品質化を図りましょう！

作成：2024年8月